

講演会 ビッグデータ時代の 産業・法令日本語情報処理の課題

❖ 開催趣旨 ❖

情報化と国際化が進む中で、日本語の機械的処理が大きな課題となっております。例えば、米国に子会社を持つ日本企業が、米国で裁判(pre-trial)に巻き込まれ場合、裁判費用の大半が、証拠書類としての日本語書類の英訳に費やされたりしております。費用だけでなく、翻訳に要する時間も問題となります。

尚、ここでいう日本語とは、小説や詩歌などは対象外で、表題にもある通り、産業や実務的法令などの分野における日本語です。

17世紀後半、イギリスでは、「このような情緒的で感覚的な言語で、近代化が推進できるのか、大陸の先進国に伍していけるのか」と言う問題意識から、ロイヤルアカデミーが旗を振って、言語の大改革を進めたそうです。

日本語も、和歌を中心とする平安時代から、事務処理が増えた武家政治の時代、西洋文明への対応を迫られた明治時代、そして、当用漢字などが定められた太平洋戦争後の時期へと変遷して来ました。他方、機械翻訳に関しては、数十年前から、本講演会で基調講演をお願いしている長尾 眞 元京大総長・国会図書館長などが先導的研究を続けて来られましたが、最近の情報処理能力の向上とともに、その成果が活かされる環境が実現されつつあります。そこで、この際、日本語の構文レベルを中心とする論理性について、再検討すべき時期ではないかと考え、本講演会を企画した次第です。

文部科学省の21世紀COEで法令工学プロジェクトを推進してこられた、片山 卓也 前北陸先端科学技術大学院大学学長・現中央大学研究開発機構教授にパネル討論会のコーディネーターをお願いして、プログラムにある通りの多分野のパネリストの方々により、様々な視点から、日本語の論理性と機械翻訳などについて議論して頂ければ幸いです。

❖ 開催日時 ❖

2014年7月30日(水) 9:45 受付開始

❖ 会場 ❖

中央大学駿河台記念館 610号室

❖ 主催 ❖

中央大学研究開発機構・NESSY 情報通信技術研究会

❖ 後援 ❖

独立行政法人情報通信研究機構

❖ 協賛 ❖

電子情報通信学会 一般財団法人マルチメディア振興センター 一般財団法人放送セキュリティセンター

❖ 参加費 ❖

無料(事前申し込み)

参加申込先 <http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~tsujii/lecture.html>

➤プログラム

(敬称略)

10:15	～	10:30	開会挨拶	辻井重男	実行委員長 中央大学研究開発機構 機構教授
10:30	～	10:45	スピーチ	福原紀彦	中央大学 学長

10:45 ~ 11:15	スピーチ	ノンフィクション作家から見た日本語(仮題)	
		吉岡 忍	日本ペンクラブ専務理事
11:15 ~ 11:55	基調講演	多言語機械翻訳と2020オリンピック	
		長尾 眞	京都大学名誉教授 元京都大学総長 前国立国会図書館館長 元独立行政法人情報通信研究機構理事長
11:55 ~ 12:25		多言語翻訳の動向—長尾賞を受賞して	
		隅田英一郎	独立行政法人情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所 副研究所長 兼 多言語翻訳研究室 室長
12:25 ~ 13:15	昼食		
13:15 ~ 17:00	パネル討論	ビッグデータ時代の産業・法令日本語情報処理の課題	
	コーディネータ	片山 卓也	中央大学研究開発機構 機構教授 前北陸先端科学技術大学院大学 学長
	パネリスト	法令工学の立場から	
		島津 明	北陸先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 シニアプロフェッサー
	パネリスト	自然言語処理の立場から	
		鍛冶 伸裕	東京大学生産技術研究所 ソシオグローバル情報工学研究センター 特任准教授
	パネリスト	日本語と手話の関係について	
		鎌田一雄	宇都宮大学名誉教授
	パネリスト	特許情報処理の立場から	
		横井俊夫	一般財団法人日本特許情報機構 特許情報研究所 顧問
	パネリスト	デジタルフォレンジック(証拠の収集・分析・保全・開示システム)におけるデータ解析の立場から	
		武田秀樹	株式会社UBIC 執行役員 最高技術責任者 行動情報科学研究所 所長
パネリスト	構造化自然言語による情報検索の立場から		
	山口 浩	中央大学研究開発機構 機構教授	
コメンテータ	藤原静雄	中央大学 法務研究科長	
コメンテータ	浅井満知子	株式会社エイアンドピーブル社長	
コメンテータ	趙 晋輝	中央大学理工学部教授	